

～下諏訪町秋宮周辺のパワースポット～

諏訪大社や七島八島、数々の「聖地」に彩られる下諏訪町。今回は、ベテラン観光ガイドの矢澤進一さんが身近な「パワースポット」を案内する、公民館主催の「もみの木学級」に、ご一緒させていただきました。

* * *

パワースポットといっても、感じ方は人様々。人によってパワースポットは多様だと思えます。まず最初はここ秋宮。町内で最大のパワースポットです。日本人の祖先は、人間の力を越えた自然の脅威に神を感じ、大きな岩や大木などを依代よりしろとして注連縄を張ってお祀りをしました。山王台なども竜神の潜むといわれる諏訪湖ようはいを遙拝する場所だったことでしょう。



言い成り地蔵

明治になっての廃仏毀釈で、秋宮の神宮寺にあったお地蔵様が萩倉に移されたが、元の場所に帰りたいがっている、ということで再度こちらに安置されることになりました。それがこの言い成り地蔵です。どんなお願い事でも聞きとどけてくださるといわれます。

もし都会近くにあったら、大変な人気が出ると思うようなお地蔵さんです。近くには名水といわれた水も出て、PR次第では今以上の売り出しも可能です。

下社の七不思議の一つ、寝入りの杉。夜の丑三つ時になると、枝を下げていびきをかくという。子どもの夜泣きに良いといったら、一人のおばあさんがスギの葉を財布の中に入れてある。旦那さんのいびきを治めてほしいとのこと。そういうことに効果があるかどうか。その人にとってはこれもパワースポットと言えるのかも知れません。

神楽殿の前にある狛犬は、青銅製のものとしては日本一の大きさと言われています。諏訪出身の彫刻家、清水多嘉示しみず たかしの作品です。



子安社



寝入りの杉

建御名方神のお母さん高志沼河姫命たけみなかたのみことをお祀りしています。土偶をご存じだと思いますが、縄文のビーナスなど、妊婦さんの土偶が多い。新しい命が生まれるということについて、昔は命がけでした。子孫の繁栄を願い、神様のように扱ったのが子安社として祀られています。

床下には石棒などが安置されていて、最近男おとこ石いし、おんないし石などと訪ねて来る人もいます。お客さんへの話題作りには格好の場所です。

生涯学習

No.546

かおり高い
文化のまち

発行 下諏訪町教育委員会
編集 生涯学習
編集委員会

〒393-8501
長野県諏訪郡下諏訪町4611-40
(下諏訪総合文化センター内)
☎0266-27-1111(内線718)
FAX 0266-28-0131
E-mail=syougai@town.
shimosuwa.lg.jp

～観光ガイドさんと巡る～

今皆さんが秋宮から歩いて来た道が甲州道中で、ここ綿の湯で中山道と合流しています。ここから和田峠に向かっても、甲州道中を戻ってもどちらも江戸。右も左も真反対に行っても両方江戸に着くという場所は、全国でもここだけです。温泉が湧き、峠を控えているということで、中山道の中では一番栄えた宿でした。ここに問屋場があって、荷物の受け渡しや駕籠や馬などの準備をしていました。そして、その奥に神様の湯、綿の湯がありました。



本陣へ この日最後の訪問地に、江戸時代から続く下諏訪最大のパワースポットの一つ、横町の本陣を訪ねることにしました。下諏訪宿本陣といえば、中山道随一とうたわれた庭園が有名ですが、今回は、その庭園を脇に見ながら、現当主の岩波さん自ら今まで余り知られることのなかった様々な本陣の「お宝」について、解説していただきました。



現在の当主、岩波さんによる解説

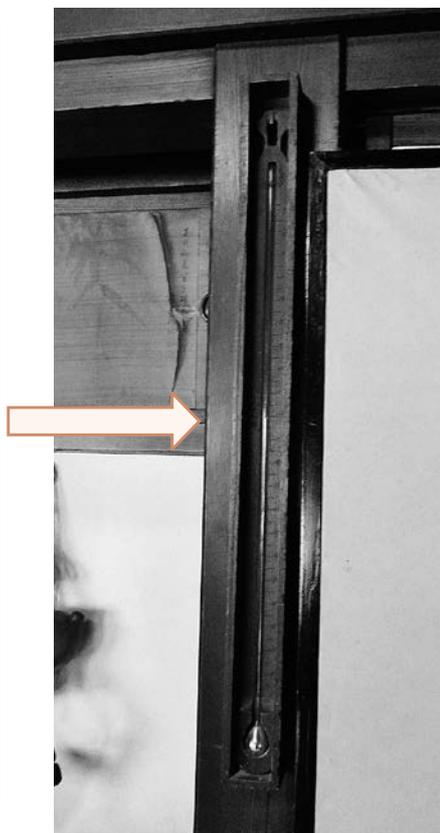
御三家から松本城主の松平家に宛てた手紙が岩波家に残ってしまっていて、手紙を入手した旨の古文書も残っています。京都の博物館の先生に読んでいただいて、つい一週間ほど前にそんなエピソードが判明しました。



たくさんの古文書を前に

これは席札といいまして、今ホテルに泊まると〇〇様ご一行というような札が掲げられますが、これはその江戸時代バージョンです。今と違うのは、これを各大名が自分で持ってきて、昼食、宿泊場所はもちろん、休憩場所にも席札を置いていきました。一回旅をする毎に何百枚という席札を使ったわけです。こちらはたまたま岩波家にあった、尾張徳川家と、紀伊徳川家の席札です。

子どもの頃から見慣れていた不思議なものです。ここに足繁く通われていた東京理科大の先生によれば、江戸時代から明治の初めにかけて、お酒を造る時に使われた温度計とのことです。



下諏訪中学校・南小学校区

コミュニティスクール

なぎがま C S

広報部 荻久保メイ子

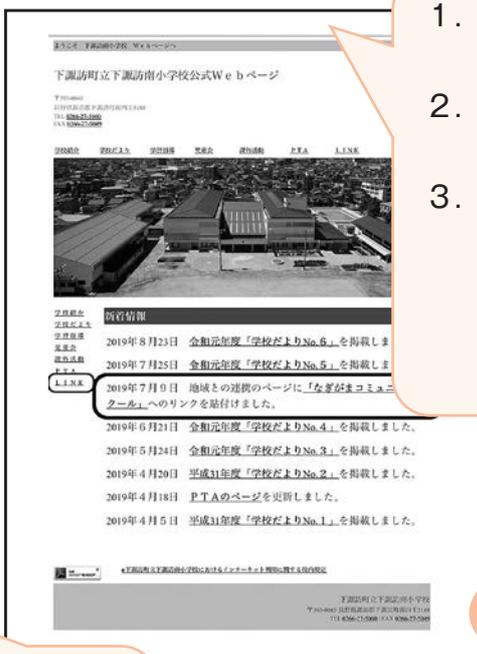
News!

なぎがまコミュニティスクールが発足して5周年を迎えました。その記念として、広報部では9月に特大号を発行しました。また、下諏訪中学校、下諏訪南小学校のHPから「なぎがまCSだより」の第1号～第12号のバックナンバーの閲覧が出来るようになりました。

下諏訪中学校



下諏訪南小学校



1. スマホやパソコンで下諏訪南小学校を検索
2. 下諏訪南小学校公式Webサイトへ
3. なぎがまコミュニティスクールへ
なぎがまCSだよりのバックナンバーが閲覧できます

1. スマホやパソコンで下諏訪中学校を検索
2. 下諏訪中学校公式Webサイトへ
3. ①のメニュー一覧
4. ②なぎがまCSだよりのバックナンバーが閲覧できます

CSの願い

コミュニティスクールは、将来の下諏訪町の担い手である子どもたちの豊かな成長のために、学校と保護者、地域の皆さんがともに知恵を出し合い、「地域とともにある学校づくり」を進めています。

最近の活動から...



イングリッシュチャレンジデイでELTの先生方と子どもたちが、ゲームをしながら英会話を楽しみました



町探検クラブの4～6年生が矢澤進一先生から高浜の今井邦子歌碑の説明を聞きました

読み聞かせでこころに種まきを

ノース下諏訪ネットワーク 増澤 洋子

ノース下諏訪ネットワークの前身、学校地域支援本部の頃から活動を続けて十年以上たたくさんのボランティアの方々の協力で、社中と北小の読み聞かせを行ってきました。

活動の中心は、両校での朝の時間帯の『読み聞かせ』です。授業の前の約一〇分間、各教室で子どもたちに絵本や物語を読んでも聞かせる・言葉にすればそれだけの事なのですが、実は奥が深いのです。

一番悩むのが、本の選定。対象の子どもたちは小一から中三まで年齢の幅があります。そこに季節感、興味、話題性を加え、作者の思いや感動が伝わる

か等も考慮し一冊を選びます。

選んだ本を何回か下読み、練習して子どもたちに聞いてもらいますが、上手に読めるかな、どんな反応をしてくれるかなと少しの不安と緊張感を持って向かいます。

読み始めると、子どもたちの視線がこちらに向かって来るのを一気と感じます。そしてお話の展開に沿って、「えーっ？」とか「あっはっは！」と反応がある。「よし！」と手応えを感じ、面白いストーリー展開になり、ここで笑いが起きてほしい、でも笑いがいない・まあ、微妙なお年頃の中学生だから仕方がないかと自分をなぐさめたり



するのです。

そんな本選びも、ドキドキしながらの読み聞かせも『楽しいひと時』と、ボランティアの皆さんは言ってくださいます。そして短い時間の小さな積み重ねが子どもたちのこころに種をまき、いつかきれいな花になる事を願っています。

数年前より、社中の生徒が北小で朝の読み聞かせを行っています。これも種が育ってきたひとつかなと思います。

さらに活動を充実させ、自分達のスキルアップを図るために昨年は講演を聞いて、子どもた

ちに取って読み聞かせがどれだけ大切なのか、改めて読み聞かせの意義と基本等を学習しました。

そして今年は、北信の『黒姫童話館』に研修に行き、ミヒヤエル・エンデや信州にゆかりのある松谷みよ子、いわさきちひろの童話や文学と歴史と背景を学んできました。

これからもたくさんのお本と子どもたちとふれあい楽しく活動が続けて行きたいと思っています。楽しみながら種まきのできる『読み聞かせ』に、あなたも参加してみませんか？



黒姫童話館にて

春宮の自然の中に

パン・モジ 藤原 恵^{めぐみ}



春宮の石垣の角を曲がり、水路に沿って進んだ静かな場所です。パン屋を初めて丸五年が経ちました。初めてこの場所を訪れたのは確か9年前だったと思いますが、春宮から砥川へ出たところの大きな木の下から浮島を眺めた時の、すーっと身体の中が洗われるような気持ちよさ、そして心がとても落ち着いていたことを今でも鮮明に憶えています。その時にはまさかこの場所に住んでお店を開くことができるなんて思っても見なかったのですが…その後の偶然が重なって現

在に至っています。

開店する前は、私共のような移住者がぼつんと始める店には地元の方はなかなか来ていただけないのではないかと心配ばかりしていました。いざ開けてみると、ご近所の方が珍しそうに寄ってくださったり、またお友達を連れてきてくださったり、手土産に使ってくださったり、本当にありがたいことの連続で、今まで何とか営業を続けてこられました。

昨年2月に喫茶営業を始めてからは観光の方もぼつりぼつりと寄ってくださるのですが、「時間を見つけて遊びに来ていよ」とか「万治くんにちよく



ちよく会いに来るんだ」とか、遠方からこの場所に何度も足を運んでいらっしゃる方の多いことに驚いています。また砥川へひと休みしにいらっしゃる地元の方と挨拶を交わすこともしばしばです。

「ここに来ると空気が違う」

「ここにいると何だか落ちつく」皆さんが話されるのを聞いてみると、単に神社にお参りに来るのとは少し違って、春宮の周りの自然を丸ごと感じて、私が初めてここを訪れた時と同じような気持ちのよさを味わっていらっしゃるのかなあと



嬉しくなります。山から流れてくる水とそれに運ばれてきた石、風で飛んできた種から大きくなった木も仲間入りしている林、種々の雑草とその花、古い石垣のすき間に生きていく生き物たち。春宮の周りにはそんな生き物たちの息づかいが溢れていて、たくさんの方々にとってここは大切な場所なのだ、と日々感じずにはいられません。だからここで営む私達の店がこの自然の邪魔にならないように、そしてここへ足を運ばれる方に喜んでいただけるような店にしよう、といつも心がけてがんばっています。



町立図書館のおすすめコーナー



「黑板アート甲子園作品集～高校生たちの消えない想い～」 日東書院

「甲子園」は今や野球の大会だけではありません。クイズ、書道、ダンスなど実にたくさんの「甲子園」があります。そんな中でぜひ注目していただきたいのが、黑板に描かれた作品の出来栄を競い合う「黑板アート甲子園」。2015年のプレ大会から始まって、毎年参加校数とレベルはどんどん高くなっています。何時間かけて緻密に描き込まれた作品でも、黑板消しであつという間に消えていくはかない黑板アート。しかしそこに込められた高校生の熱い想いは消えることはありません。その素晴らしい作品をたっぷりご堪能下さい。 文責：宮坂昭子



下諏訪町立図書館 ☎27-5555

町民大学

下諏訪を学ぶ ⑥

メンデル講演会

日時：11月23日（土） 午後1時30分～午後3時30分

会場：文化センター2階 集会室 ※当日受付可（受講料100円）

①演題：染色体異常をみつける

講師：数藤 由美子 博士 【略歴】(国研)量子科学技術研究開発機構・高度被ばく医療センター
今回は、線量推定に役立つ染色体異常をどのようにして検出するのか、人工知能などを導入した最新の技術開発を交えてお話しします。

②演題：日本メンデル協会の創始者 篠遠 喜人博士の肖像

講師：長田 敏行 博士 【略歴】東京大学名誉教授・法政大学名誉教授
下諏訪町出身の篠遠博士は1984年に日本メンデル協会を創設し、講演会を行うとともに国際科学雑誌キトログアを刊行。これらの現状と、今後の展望と課題について話題を提供します。

お問い合わせ 下諏訪町公民館 ☎28-0002

＋ Ｉ Ｅ Ｇ Ｎ Ｒ

今年も残すところあと2ヵ月。時の流れは年を取るとともにどんどん速くなっているように感じます。時間とともに忘れてしまうことのなんと多いことか！次から次へと起こる様々な出来事で容量がさほど大きくない私の脳ミソは、今年の最初に起こった大きな出来事を忘れてしまっています。

今年最初に起きた大きな出来事、みなさんは覚えていますか？新聞に今年の国内外の10大ニュースを宛てる企画があります。それに乗っかり毎年今頃から、「日本で、世界で、そして私自身どんなことがあったかな？」と一年を振り返る事になっています。令和の記念すべき1年目は、皆さんにとつてどんな年だったでしょうか。

1年で最も気忙しくなる師走がやってくる前に、ちょっとコーヒーでも飲んでのんびり振り返ってみてはいかがでしょう。「あれ？このことって今年の出来事だっけ？この出来事があったとき、私はこんなことしていたなあ」そんなことを振り返る時間は結構楽しいです。

ちなみに私の10大ニュースの1つは：仲間との1泊2日北海道への弾丸旅行。念願のうに井：美味しかったあ！

(林 美奈)